

専念寺通信

専念寺通信

七月号 (NO. 83)

雨が降ったり、やんだかと思うと真夏の日差しが照りつけたり、天候不順な季節です。ことしも早いもので、もう一年の半分が過ぎてしまいました。みなさま、お元気にお過ごしですか? 『通信』7月号です。

☆夏の盆会

7月13日から15日までがお盆です。13日はお盆の入りの日。この日に、亡くなった人の魂が帰ってくると言われており、迎え火を焚きます。都会では住宅事情の関係からこの習慣はなくなりましたが、マコモでできたゴザを敷いて、そこに夏野菜、素麺、ほおずきなどを供え、**精霊棚** (しょうりょうだな) を作ってお迎えする習慣はまだ残っているようです。「こちらへ来る時は速く走る馬に乗って、そして向こうへ戻っていく時はゆっくりとした牛に乗って行ってください。」という、私たち祖先の願いが、夏野菜で作る動物のかたちとなって伝えられています。

盂蘭盆会 (うらぼんえ) という言葉は、ウランバナという梵語に文字をあてはめた言葉です。意味は「倒懸 (とうけん) ——倒してつるす——」で、次のような故事に由来します。お釈迦さまの高弟、目蓮上人が六通の神通力で亡くなった自分の母の様子を見たところ、母は地獄へ落ち、逆さ吊りの苦を受けていることを知りました。お釈迦さまにそれを告げ、救いをもとめたところ、お釈迦さまは僧侶が夏安居 (げあんご) を終える7月15日に衆僧を供養すれば、母を含めたすべての祖先が成仏できると教えました。やがて、僧侶のためでなく、すべての人々の救いのた

めに盆会は行なわれるようになりました。現在は関東地方は新暦 (陽暦) により7月に、そのほかの地方では旧暦 (陰暦) により8月に盆会は営まれます。8月16日に行なわれる、有名な京都の大文字焼きは、日本でもっとも美しい送り火といえるでしょう。

専念寺では、新盆を迎えられた檀家さまのための合同供養を毎年、本堂でとりおこなっております。今年は7月15日、日曜日、午前11時からのご法要となります。新盆を迎えられる檀家さまへは、お葉書でご案内申しあげました。ご参加をお待ち致しております。

☆新規墓所のご案内

江戸時代からの古い墓所を移動させたり、別のところへ墓所を移された檀家さまのお墓の跡を整えたりして、何カ所か、墓所の区画が新しく

取れました。既にいくつかの区画がご予約済みとなっておりますが、まだいくらかの余裕がございます。檀家さまのお身内、お知り合いを優先させて頂きたい、ご案内申し上げます。ちいさな区画から比較的ゆったりとした区画までございます。お墓参りのおついでにご覧になり、ご希望があれば住職、大黒にお申しつけください。ささやかな寺ではございますがこれからも檀家さまのために懸命に努めて参りたいと思っております。

平成19年7月1日

大黒

